1. 呑川は、どこからどこへ流れているのですか？

現在の河川の扱い→図 1

呑川は、二級河川で都知事が管理し、図の国道 246 号（玉川通り）から東京湾までの 14,4km、途中で九品仏川（2.6 km）が合流する河川とされています。

九品仏川との合流点から上流 4.9 km は暗渠化され、呑川親水公園を除くと緑道になっています。

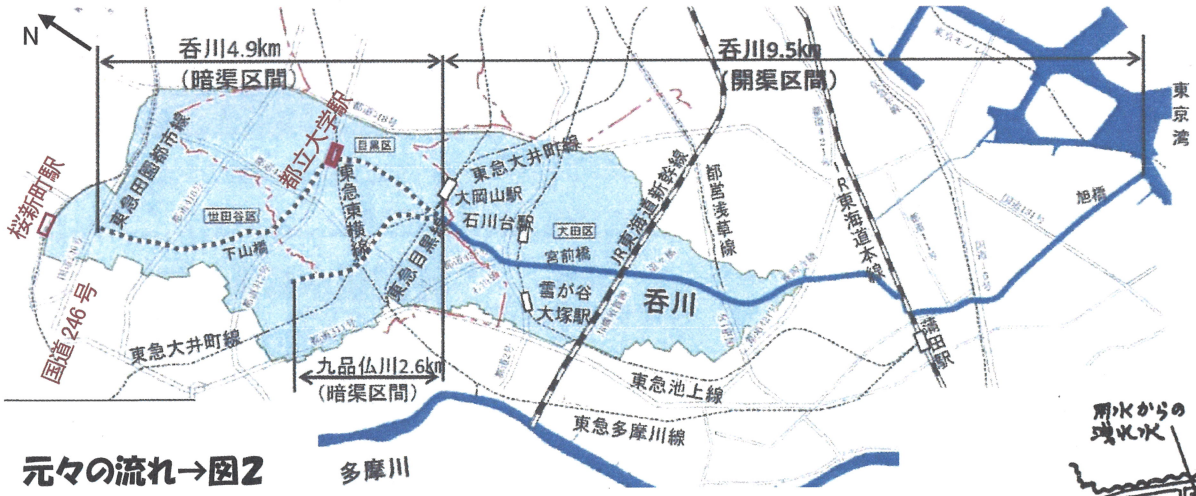

図 1　呑川の流域

暗渠化とは？
水路に覆いをして外から見えないようにすること

元々の流れ→図2

図１では国道 246 号以北は河川になっていませんが、元々の流れは、図２に示す旧厚木道（現在の駅前通り）のすぐ南からでした。いくつかの湧水からの水が集まって呑川になったのでしょう。品川用水からの漏れ水も含まれたようです。住宅地中央部の湧水からの東への流れを加筆しました。

図2　呑川のかつての最上流部

2. 呑川は、なぜ暗渠化されたのでしょう？

かつての世田谷区の河川と用水→図3

いつ時点の図かは不明ですが、世田谷区には図３ように多くの川や用水が流れていました。呑川の支流は九品仏川だけでなく、駒沢支流、柿の木坂支流と呼ばれる支流がありました。

下水道になった河川・下水道にならなかった河川→図4

特に戦後、下水道未整備のまま進んだ宅地化によって、河川は排水路に変貌していきました。昭和 36（1961）年に東京都は、河川の一部又は全部を暗渠化し下水道幹線として利用する方針を定め、世田谷区内では、呑川（図１の暗渠化部分）、九品仏川、北沢川、烏山川、蛇崩川が挙げられました。

図3　世田谷区の河川・用水

図3、図4の◯印は、桜新町駅のおよその位置を示しています。

図4　下水の合流地域と分流地域